

強い米雇用統計でも市場の動揺は長続きせず



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 強い雇用統計も市場の動揺は限定的

米労働省が12月2日に発表した11月の米雇用統計は非農業部門雇用者数が前月比26.3万人増と市場予想（同20.0万人増）を上回りました。今回の統計でとりわけ目を引いたのが、賃金上昇圧力の強さです。平均時給は前月比0.6%増と市場予想（同0.3%増）の2倍の伸びとなったほか、10月分も同0.5%増（速報値同0.4%増）と上方修正されるなど、賃金上昇圧力の根強さを改めて示した格好です。

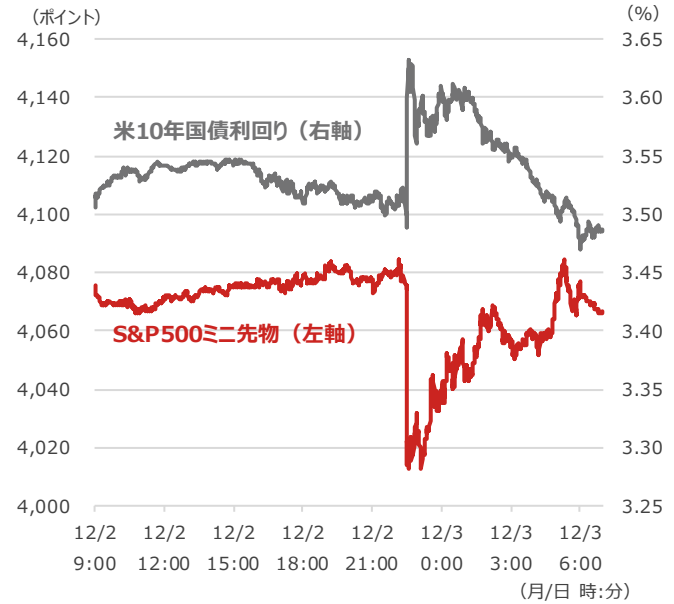
もっとも、市場の反応は限定的でした。強い米雇用統計を受けて、市場は株売り・債券売りで反応しましたが、その後は落ち着きを取り戻し、結果的に米国株先物は下げ幅を大きく縮小し、米10年国債利回りに至っては上昇から低下（前日比）に転じる流れとなりました（右上図）。

ポイント② FF金利のピーク予想はほぼ変わらず

今回の米雇用統計を受けた市場の動きでもう一つ特徴的だったのは、FF金利のピーク予想がそれほど切り上がらなかったことです。今夏には市場予想を上回るインフレ指標が発表されると、FF金利のピーク予想が大きく切り上がり、大幅利上げが長期化すると懸念から株価が下落する展開が続いてきました（右下図）。

現時点で市場が予想するFF金利の利上げ幅は残り1%程度との見方が強まりつつあるなど（同図）、FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げは最終局面に近づいているようにみえます。今後発表される米PPI（生産者物価指数）や米CPI（消費者物価指数）などが市場予想通りインフレ鈍化を示唆する内容となるかが当面の市場動向を占う上で焦点となりそうです。

S&P500ミニ先物と米10年国債利回り



期間：2022年12月2日9時～2022年12月3日7時（日本時間）、1分刻み
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数・FF金利ピーク予想値・FF金利誘導目標上限値



期間：2022年7月1日～2022年12月2日、日次
・FF金利はフェデラルファンド金利
・FF金利ピーク予想値は、FF金利先物から算出した2023年5月FOMC終了時点の金利予想値（2022年12月2日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。